

# 1. 「スターバト・マーテル」作品58 曲目解説

ドヴォルザーク(1841-1904)はチェコの作曲家。幼少のころから才能の片鱗を見せ、家業の肉屋を継いでほしいとの両親の願いに反して音楽家を志し、苦学の後大成した。

交響曲第9番「新世界より」、チェロ協奏曲、歌劇「ルサルカ」を始めとし、数多くの室内楽曲など世界中の人びとが知る彼の作品は枚挙にいとまがないが、この曲は、ようやく音楽家としての道が開き始めた30代の半ばに3人の子供たちを次々に失ったという不幸な出来事から生まれた。

まず長女(初めての子)を生後2日で亡くし、2年後、1歳に満たない次女が事故死(劇薬を誤飲)、その翌月には3歳の長男が病死(天然痘)。ドヴォルザークは当時作曲仕事が多忙だったが、長女を亡くした頃に着手しておいたスケッチをもとに、息子たちの死後2カ月ほどで一気に曲を書きあげた。聖母マリアの我が子への思いに自分の思いを重ねたこの曲は、今日、彼の名を世界的にする代表作のひとつに数えられている。

- ・初演 1880年12月23日(完成してから3年後) プラハ音楽芸術家協会定期コンサート
- ・編成 独唱(ソプラノ、アルト、テノール、バス) 合唱(混声四部)  
フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、  
トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、オルガン、弦楽合奏
- ・演奏時間 約92分

**第1曲 四重唱と合唱** アンダンテ・コン・モト 口短調 3/2拍子。序奏の管弦楽の、上へ上へと続くオクターブの動きは、十字架につけられたキリストを見上げるマリアの姿を彷彿とさせる。テノールを先頭とした混声合唱から開始し、テノール独唱の劇的な登場に移り、曲をドラマティックに展開させてゆく。10曲中最も長大で、演奏時間は全体の約1/4を占める。

**第2曲 四重唱** アンダンテ・リスタート 木短調 3/4拍子。大変聞きごたえのある名曲。

**第3曲 合唱** アンダンテ・コン・モト 八短調 4/4拍子。全曲を通じて最も有名で、単独で歌われることも多い葬送行進曲風の合唱曲。

**第4曲 バス独唱と合唱** アルゴ 変口短調 8/4拍子。バス独唱と天使の声の女声四部合唱の対比が美しい(女声合唱の代わりに少年合唱を用いるケースもある)。途中から男声も登場し、混声に。

**第5曲 合唱** アンダンテ・コン・モト、クレゾンド・アレグロ 八短調 6/8拍子。「傷」などの歌詞の内容にはあまりそぐわない、なだらかに描かれた牧歌的な曲。

**第6曲 テノール独唱と合唱(男声四部)** アンダンテ・コン・モト 口長調 4/4拍子。同じ歌詞、同じ旋律をほぼ交互に歌っていく形式。穏やかに開始するが、激しい祈りでの部分では力強さを見せる。

**第7曲 合唱** アルゴ イ長調 2/4拍子。短い前奏ののちアカペラで開始する祈りの曲。音を切り詰めた管弦楽も静穏な祈りの雰囲気醸し出す(要するに全体的に伴奏部分が少なくアカペラが多い)。

**第8曲 ソプラノとテノールの二重唱** アルゲット 二長調 8/4拍子。対位法的変奏を続けてゆく小さな変奏曲の趣。

**第9曲 アルト独唱** アンダンテ・マエストロ 二短調 4/4拍子。バッハやヘンデルのオラトリオのダ・カーポ・アリアを彷彿とさせるスタイルで、聖母に激しく祈りをささげる。

**第10曲 四重唱と合唱** アンダンテ・コン・モト～アレグロ・モト 口短調～二長調 3/2拍子。第1曲のモチーフを再登場させており、最初のクライマックスでは第1曲と同様に減七の和音で終わる…という大方の予想を裏切り、突然輝かしいト長の和音で「天国の栄光」を歌う。その後のアレグロ・モルト(この曲で初めての速度)からはアーメンの二重フーガ開始。最高に盛りあがったところに置かれた合唱による無伴奏の和声的レチタティーボで頂点に達し、その後静かにアーメンと祈りを捧げ、曲が閉じられる。

## 2. 歌詞対訳

曲順	節	詞	訳
I	1	Stabat Mater dolorosa juxta crucem lacrimosa, dum pendebat Filius.	悲しみに沈む聖母は立っていた 十字架の側に、涙を流しながら 御子が十字架に架けられていた間
	2	Cujus animam gementem, contristatam et dolentem, pertransivit gladius.	嘆息し、 悲しみ、苦しんでいるその魂を 剣が刺し貫いた
	3	O quam tristis et afflicta fuit illa benedicta. Mater Unigeniti!	ああ、どんなにか悲しみ、傷ついたことか、 神の独り子の母である 祝福されたあの方は
	4	Quae maerebat et dolebat, pia Mater, dum videbat (et tremebat, dum videbat) Nati poenas incliti.	どのように悲しみ、苦しんでいたことか、 慈悲深い御母は 御子が気高く罪を償うのをご覧になりながら (ご覧になる間、震えおののいていた)
II	5	Quis est homo, qui non fleret, Matrem Christi si videret in tanto supplicio?	泣かないひとがいるだろうか？ このような責め苦の中にある キリストの母を見て
	6	Quis non posset contristari, Christi Matrem contemplari dolentem cum Filio?	誰が悲しまずにいられようか？ 子と共に悲しむ キリストの母を見て
	7	Pro peccatis suae gentis vidit Jesum in tormentis et flagellis subditum.	人々の罪のため、 イエスが責め苦の中にあり、 鞭打ちに服するのを母は見た
	8	Vidit suum dulcem Natum moriendo desolatum, dum emisit spiritum.	最愛のわが子が 見捨てられて死んでゆくのを、 命が放たれていくのを、母は見た
III	9	Eja, Mater, fons amoris, me sentire vim doloris fac, ut tecum lugeam.	さあ、聖母よ、愛の泉よ、 私にその悲しみを感じさせてください あなたとともに悼ませてください
IV	10	Fac, ut ardeat cor meum in amando Christum Deum, ut sibi complaceam.	私の心を燃え上がらせてください、 神なるキリストを愛することで その御心にかなうように

	11	Sancta Mater, istud agas, Crucifixi fige plagas, cordi meo valide.	聖母よ、どうかあなたの為されるがままに 十字架に架けられた御子の傷を 私の心にはっきりと刻みこんでください
V	12	Tui Nati vulnerati, tam dignati pro me pati, poenas mecum divide.	御子の傷を、 これほどまでの、私のために受けた傷に 値する罰を私にも分け与えてください
VI	13	Fac me vere tecum flere, Crucifixo condolere donec ego vixero.	あなたと共に、真に涙させてください 十字架に架けられたイエスの苦痛を 感じさせてください、私が生きている限り
	14	Juxta crucem tecum stare, Te libenter sociare in planctu desidero.	私はあなたと共に十字架の側にいて あなたと共に悲しみたいと 心から熱望するのです
VII	15	Virgo virginum praeclara, mihi jam non sis amara, fac me tecum plangere.	最も高潔なる処女の中の処女よ、 どうか私を拒否せず 共に悲しませてください
VIII	16	Fac, ut portem Christi mortem passionis fac consortem, et plagas recolare.	私にキリストの死と受難を知らしめ 慰めさせてください その傷を労らせてください
	17	Fac me plagis vulnerari, Cruce hac inebriari, ob amorem Filii.	私にも傷を負わせ、 十字架に酔わせてください 御子への愛に酔わせてください
IX	18	In flammatus et accensus, per te, Virgo, sim defensus, in die judicii.	炎と業火から、 処女よ、あなたによって守られますように 最後の審判の日に
	19	Fac me cruce custodiri, morte Christi praemuniri, confoveri gratia.	十字架で守られ キリストの死で前方を防ぎ 恩寵にて慈しみいただけますように
X	20	Quando corpus morietur, fac, ut animae donetur paradisi gloria. Amen.	肉体が亡びるときも、 魂には天国の栄光が 与えられますように アーメン

一般的な「公会堂祈祷文」とは異なるものが使われている(19節)

### 3. 発音・逐語訳

P.1 I. Stabat Mater dolorosa						
P.3	Stabat	Mater	dolorosa			
	[ stá-bat ]	[ má-ter ]	[ do-lo-ró-sa ]			
	立っている	母は	悲しみの、悲嘆にくれた			
悲しみに沈む聖母は立っていた						
	Juxta	crucem	lacrimosa,			
	[ júks-ta ]	[ krú-tʃem ]	[ la-kri-mó-sa ]			
	すぐ近くに	十字架の	涙にむせびつつ			
十字架の側に、涙を流しながら						
	Dum	pendebat	Filius.			
	[ dum ]	[ pen-dé-bat ]	[ fí-li-us ]			
	時、~の間	架かっていた	御子が			
御子が(十字架に)架けられていた間						
P.14	O	quam	tristis	et	afflicta	
	[ o ]	[ kwam ]	[ trí-stis ]	[ et ]	[ af-flí-kta ]	
	おお	どれほど(多く)	悲しい	そして	傷ついた、悲惨な	
ああ、どんなに悲しみ、傷ついたことか						
	Fuit	illa	benedicta			
	[ fú-it ]	[ íl-la ]	[ be-ne-dí-kta ]			
	~された	あの	祝福			
祝福されたあの方は						
	Mater	Unigeniti!				
	[ má-ter ]	[ u-ni-dzé-ni-ti ]				
	母	(神の)独り子				
神の独り子の母である(あの方は)						
P.19	Quae	maerebat	et	dolebat,		
	[ kwe ]	[ me-ré-bat ]	[ et ]	[ do-lé-bat ]		
	どのように	悲しんでいた	そして	苦しんでいた		
いかに悲しみ、苦しんでいたことか						
	Pia	Mater,	dum	videbat		
	[ pí-a ]	[ má-ter ]	[ dum ]	[ vi-dé-bat ]		
	慈悲深い、優しい	御母は	時、~の間	見ていた		
慈悲深い御母は、ご覧になっていた間						
	et	tremebat	dum	videbat		
	[ et ]	[ tre-mé-bat ]	[ dum ]	[ vi-dé-bat ]		
	そして	震えおののいていた	時、~の間	見ていた		
(ご覧になっていた間、震えおののいていた)						

	Nati	poenas	incliti.	
	[ ná-ti ]	[ pé-nas ]	[ ín-kli-ti ]	
	御子の	罰を受ける、罪を償う	尊い、気高い	
御子が気高く罪を償うのを(見て)				

<b>P.59</b>	<b>III. Eja, Mater, fons amoris</b>			
	Eja,	Mater,	fons	amoris,
	[ é-ja ]	[ má-ter ]	[ fons ]	[ a-mó-ris ]
	さあ	御母よ	泉	愛の
さあ、聖母よ、愛の泉よ				
	Me	sentire	vim	doloris
	[ me ]	[ sen-tí-re ]	[ vim ]	[ do-ló-ris ]
	私に	感じさせてください		悲しみの
私にその悲しみを感ぜさせ、				
	Fac,	ut	tecum	lugeam.
	[ fak ]	[ ut ]	[ té-kum ]	[ lú-dze-am ]
	～させてください	～のように	あなたとともに	嘆く、悼む
あなたとともに悼ませてください				

<b>P.72</b>	<b>IV. Fac, ut ardeat cor meum</b>			
<b>P.73</b>	Sancta	Mater,	istud	agas,
	[ sán-cta ]	[ má-ter ]	[ í-stud ]	[ á-gas ]
	聖なる	御母よ	あなたの	為すように
聖母よ、あなたの為すがままに				
	Crucifixi	fige	plagas	
	[ kru-tí-fí-ksi ]	[ fí-dze ]	[ plá-gas ]	
	十字架にかけられた	刻みつける	傷	
十字架にかけられた御子の傷を刻みこんでください				
	Cordi	meo	valide.	
	[ kór-di ]	[ mé-o ]	[ vá-li-de ]	
	心	私の	はっきりと、大變に	
私の心にはっきりと				

P.80 V. Tui Nati vulnerati					
	Tui	Nati	vulnerati		
	[ tú-i ]	[ ná-ti ]	[ vul-ne-rá-ti ]		
	あなたの	御子の	傷、侮辱		
	御子の傷を				
	tam	dignati	pro	me	pati
	[ tam ]	[ di-ná-ti ]	[ pro ]	[ me ]	[ pá-ti ]
	これほどまでに	然るべき、価値、尊重	~のために	私の	苦しむ 受ける 許す
	これほどまでの、私のために受けたものに値する				
	poenas	mecum	divide.		
	[ pé-nas ]	[ mé-kum ]	[ dí-vi-de ]		
	罰、償い	私とともに	分配する、割り当てる		
	罰を私にも分けてください				

P.93 VI. Fac me vere tecum flere ※男声のみ					
P.94	Fac	me	vere	tecum	flere,
	[ fak ]	[ me ]	[ vé-re ]	[ té-kum ]	[ flé-re ]
	~させてください	私に	真に	あなたとともに	泣く、嘆く
	あなたと共に、真に涙させてください				
	Crucifixo	condolere			
	[ kru-tʃi-fí-kso ]	[ kon-do-lé-re ]			
	十字架のイエスと	ひどく苦痛を感じる			
	十字架に架けられたイエスの苦痛を感じさせてください				
	Donec	ego	vixero.		
	[ dó-nek ]	[ é-go ]	[ ví-kse-ro ]		
	~の限り、~の間は	私の	生きる		
	私が生きている限り				
P.97	Juxta	crucem	tecum	stare,	
	[ júks-ta ]	[ krú-tʃem ]	[ té-kum ]	[ stá-re ]	
	すぐ近くに	十字架の	あなたとともに	居て	
	私はあなたと共に十字架の側において				
	Te	libenter	sociare		
	[ te ]	[ li-bén-ter ]	[ so-tʃi-á-re ]		
	あなた	喜んで、快く	結ぶ、共同にする		
	あなたと共に(すすんで)				
	In	planctu	desidero.		
	[ in ]	[ plán-ktu ]	[ de-sí-de-ro ]		
	~のうちに、~において	声高な嘆き、悲泣	熱望する		
	悲しみたいと熱望するのです				

P.103 VII. Virgo virginum praeclara					
Virgo	virginum	praeclara,			
[ vír-go ]	[ vír-dzi-num ]	[ pre-klá-ra ]			
処女の	最も処女である(最上級)	大いに優れて、非常に明らかに			
最も(高潔なる)処女の中の処女よ					
Mihi	jam	non	sis	amara,	
[ mí-ki ]	[ jam ]	[ non ]	[ sis ]	[ a-má-ra ]	
私を	もはや~しない、まだ~しない	よろしければ	辛辣な、不快な		
どうか私を拒否せず					
Fac	me	tecum	plangere.		
[ fak ]	[ me ]	[ té-kum ]	[ plán-dze-re ]		
~させてください	私に	ともに	声高に嘆く、悲泣する		
ともに悲しませてください					

P.128 X. Quando corpus morietur					
P.130	Quando	corpus	morietur,		
	[ kwán-do ]	[ kór-pus ]	[ mo-ri-é-tur ]		
	~するとき	肉体が	亡ぶ、死ぬ		
肉体が亡びるときも					
Fac,	ut	animae	donetur		
[ fak ]	[ ut ]	[ á-ni-me ]	[ do-né-tur ]		
~させてください	~のように	魂	与える、許す		
魂には与えられますように					
Paradisi	gloria.				
[ pa-ra-dí-si ]	[ gló-ri-a ]				
天国	荣誉、誉れ				
天国の栄光が					
Amen.					
[ á-men ]					
アーメン					
アーメン					

## 4. ラテン語の発音

ラテン語には主に古典式、イタリア式、ドイツ式などがあり、その他にも年代や地域によって異なるがここではイタリア式でまとめる。

1. 発音の基本はローマ字式  
ただしカタカナ読みはしない

2. 1字1音  
すべての文字は1音しか持たず、すべての文字は発音される  
表記されていないながら発音されない文字はない

3. 音節は母音の数だけある  
dolorosa [do-lo-ró-sa] (悲しみの、悲嘆にくれた) : o-o-o-a で4音節  
gloria [gló-ri-a] (栄誉、誉れ) : o-i-a で3音節

### 4. 母音

・基本母音 : [a][e][i][o][u]の5種類。(古典ラテン語には短母音、長母音もある)  
※[u] ; 円唇狭母音。日本語の「ウ」よりももっと唇をすぼめ、前に突き出すようにして発音する。

crucem [krú-tʃem] 十字架の

Unigeniti [u-ni-dzé-ni-ti] (神の)独り子

・二重母音 : 「ae」「oe」は[e]と発音する。

maerebat [me-ré-bat] 悲しんでいた

poenas [pé-nas] 罰を受ける、罪を償う

### 5. 子音

・単子音 黙音 p, b, ph ; c, k, g, q, ch ; t, d, th

流音 l, r

鼻音 m, n

擦音 h, f, s, z

・複子音 x [ks] z [sd][ds]

・半母音 i(j), v



=主な子音の例=

・[s] : 母音+「s」+母音 で濁る。

無声のするどい摩擦音[s]でもなく、有声の[z]でもなく、[s]がその前後の母音の影響を受けて同化作用を起こし、わずかながら有声化して[z]に近くなった音。

dolorosa [ do-lo-ró-sa ] 悲しみの、悲嘆にくれた

lacrimosa [ la-kri-mó-sa ] 涙にむせびつつ

※「s」+母音 は濁らない sentire [ sen-tí-re ] 感じさせてください

・[j] : 半母音。日本語のヤユヨの子音。

juxta [ júks-ta ] すぐ近くに

eja [ é-ja ] さあ

・[dʒ] : 「g」+「e」または「i」の破擦音。舌先が上前歯の裏側の歯ぐきに一旦ついてから発音。

Unigeniti [ u-ni-dzé-ni-ti ] (神の)独り子

lugeam [ lú-dze-am ] 嘆く、悼む

virginum [ vír-dʒi-num ] 最も処女である(最上級)

・[kw] : 「q」+「u」+母音。

quae [ kwe ] どのように

quando [ kwán-do ] ~するとき

・[l] : 舌先を上前歯の裏側にしっかり押しつけた後で離す音。はっきりと離す。

lugeam [ lú-dze-am ] 嘆く、悼む

gloria [ gló-ri-a ] 栄誉、誉れ

・[r] : 巻き舌。しっかり巻く。

Crucifixi [ kru-tʃi-fí-ksi ] 十字架にかけられた

cordi [ kór-di ] 心

gloria [ gló-ri-a ] 栄誉、誉れ

・[f] : 前歯を下唇に軽くつけて息を出す

fac [ fak ] ~させてください

flere [ flé-re ] 泣く、嘆く

・[v] : 前歯を下唇に軽くつけて息を出す

vulnerati [ vul-ne-rá-ti ] 傷、侮辱

vixero [ ví-kse-ro ] 生きる

・[ ks ] : 「x」は基本的には濁らない。

Crucifxi [ kru-tʃi-fí-ksi ] 十字架にかけられた  
vxero [ ví-kse-ro ] 生きる

・[ ɲ ] : 母音+「gn」+母音 で起こる特殊な発音(鼻音)。日本語の「んニャ、んニュ、んニョ」等に  
近い音。 dignɲati [ di-ɲá-ti ] 然るべき、価値、尊重

・[ ŋk ] : 一度鼻濁音で呑み込んだあと、改めて固い [k] の音を出す。  
sancta [ sán-ktá ] 聖なる

・[ m ] : 鼻音。唇は閉じる。「m」がふたつ重なるときはほぼ撥音(はねる音)になる。  
morietur [ mo-ri-é-tur ] 亡ぶ、死ぬ  
animae [ á-ni-me ] 魂  
crucem [ krú-tʃem ] 十字架の

・[ n ] : 鼻音。舌先を前歯裏につけ、唇は開く。「n」がふたつ重なるときはほぼ撥音。  
Nnati [ ná-ti ] 御子の  
fons [ fons ] 泉  
Amen [ á-men ] アーメン

・[ k ] : ラテン語では「h」は基本的に発音しないが、例外として「mihi (私に)」「nihi (何もない)」  
という言葉の「h」は[k]を使用する。  
mihi [ mí-ki ] 私を、私に

・[ tʃ ] : 「c」+前母音[e]または[i]のとき。  
sociare [ so-tʃi-á-re ] 結ぶ、共同にする  
crucem [ krú-tʃem ] 十字架の

+++参考文献+++

「名曲解説全集第23巻 声楽曲Ⅲ」(音楽之友社 佐川吉男氏)

「新リーダーシャッツ 女声合唱第1巻」(カワイ出版)

「はじめてのラテン語」(大西英文著/講談社現代新書)

「ミサ曲 ラテン語・教会音楽ハンドブック」「歌うドイツ語ハンドブック」(三ヶ尻正著/シヨパン)

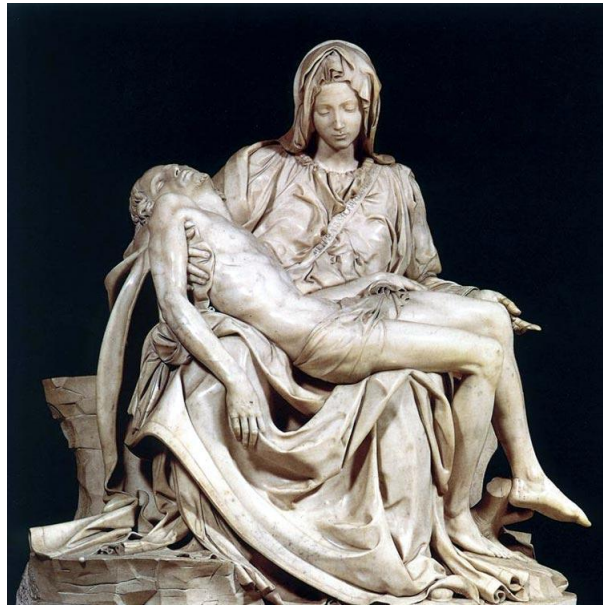
文責:S堀尾



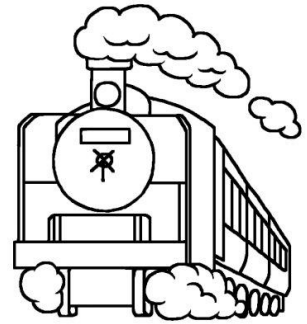
# DVOŘÁK

## Stabat Mater

Op. 58



poco a poco No.1  
2010.11.23  
技術委員会



ドヴォルザークは鉄ちゃんでした

## 目 次

- 1. 曲目解説 … 1
- 2. 歌詞対訳 … 2
- 3. 発音・逐語訳 … 4
- 4. ラテン語の発音 … 8



無類の鳩好きでもあったそうです

